

中野区教育委員会会議録 平成23年第5回定例会

○開会日 平成23年2月18日(金)

○場 所 中野区教育委員会室

○開 会 午前10時01分

○閉 会 午前11時02分

○出席委員(5名)

中野区教育委員会委員長	飛鳥馬 健 次
中野区教育委員会委員長職務代理	山 田 正 興
中野区教育委員会委員	高 木 明 郎
中野区教育委員会委員	大 島 やよい
中野区教育委員会教育長	田 辺 裕 子

○出席した事務局職員(7名)

教育委員会事務局次長	合 川 昭
副参事(教育経営担当)	白 土 純
副参事(学校再編担当)	吉 村 恒 治
副参事(学校教育担当)	古 屋 勉
指導室長	喜 名 朝 博
副参事(生涯学習担当)	飯 塚 太 郎
中央図書館長(統括)	小谷松 弘 市

○担当書記

教育経営分野	吉 田 真 美
教育経営分野	仲 谷 陽 兵

○会議録署名委員

委員長	飛鳥馬 健 次
委 員	大 島 やよい

○傍聴者数 3人

○議事日程

〔議決案件〕

日程第1 第8号議案 中野区教育ビジョン（第2次）について

〔報告事項〕

（1）委員長、委員、教育長報告事項

- ・ 2 / 7 教育相談室研究発表会について
- ・ 2 / 9 中野区幼稚園教育研究会研究発表会について
- ・ 2 / 9 東京都医師会予防接種講演会について
- ・ 2 / 10 研究発表会（南中野中学校）について
- ・ 2 / 10 第十中学校「思春期の生と性」講演会について
- ・ 2 / 16 中野区小学校教育研究会研究発表会について
- ・ 2 / 16 中野区立中学校教育研究会研究発表会について
- ・ 2 / 17 中野区保健主任・養護教諭研修会について

（2）事務局報告事項

- ①平成23年度予算（案）の概要について（教育経営担当）

中野区 教育委員会
第5回定例会
(平成23年2月18日)

午前10時01分開会

飛鳥馬委員長

おはようございます。

ただいまから教育委員会第5回定例会を開会いたします。

本日の出席状況は、全員出席でございます。

本日の会議録署名委員は、大島委員にお願いします。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりです。

それでは、日程に入ります。

<議決案件>

<日程第1>

飛鳥馬委員長

日程第1、第8号議案「中野区教育ビジョン（第2次）について」を上程いたします。

議案の説明をお願いします。

副参事（教育経営担当）

それでは、第8号議案についてご説明をいたします。

本議案は、現行の教育ビジョンが作成された平成17年6月以降、教育基本法の改正や新学習指導要領の改訂等、教育情勢の変化や新たな教育課題が生じてまいりました。これらに的確に対応するため、現行ビジョンを見直し、新たに「中野区教育ビジョン（第2次）」を作成するものでございます。本ビジョンでは、現行の教育ビジョンで掲げた教育理念や目指す人間像を基本とした上で、現状と課題を分析し、10年後を見通した教育の目指すべき姿とともに、5年間で重点的に進める取り組みを明らかにしてございます。

また、本計画を教育基本法に基づく区の「教育振興基本計画」と位置づけまして、計画期間を平成22年度からの10年間といたしました。5年後、10年後の指標を設定いたしまして、目標の達成状況をはかりながら、取り組み、内容の点検・評価を行っていくものでございます。

次に、本ビジョンの構成についてご説明いたします。第1章から第3章までの3章立てとしてございます。第1章においては、計画の基本的な考え方、第2章においては、中野区が目指す教育の姿として、10年後を見通した教育の目指す姿を示してございます。第3章では、八つの目標ごとに、現状と課題、成果指標の設定、10年後を見通した取り組みの方向や、行政・学校における今後5年間で重点的に進める取り組みを示してございます。

検討の経過についてご説明いたします。本ビジョンの策定に当たりましては、平成20年度に策定方針について、平成21年度には「中野区教育ビジョン（第2次）」に盛り込む内容について、教育委員会で協議を重ねてまいりました。平成22年度には、素案の内容について協議を行うとともに、素案について区民や関係団体との意見交換を行い、議会との議論等を踏まえまして、最終的な文案を教育委員会で取りまとめ、案についてパブリック・コメント手続を実施したところでございます。前回の定例会で、パブリック・コメント手続の実施結果とあわせて、「中野区教育ビジョン（第2次）」についてご協議、確認をいただいているところでございます。

前回定例会でのご協議の中で、体力テストの結果等、新しいデータに更新する必要があるというご意見を踏まえまして、次の数値を平成22年度のデータに更新しております。

20ページをお開きいただきたいと思います。「中野区学力にかかわる調査」の結果でございます。これを22年度の最新のデータに修正をしております。この関係で、前の19ページの下から4行目の実績値、それから、23ページでも成果指標の実績値を22年度のデータに修正しております。

23ページをお開きください。「日本語指導が必要な児童・生徒数の推移」のデータでございます。これを22年度までの最新の数値にしてございます。

それから、28ページをお開きください。「1日の睡眠時間が6時間未満の児童・生徒の割合、1日のテレビの視聴時間が3時間以上の児童・生徒の割合」のデータについて、22年度の実績値にしてございます。

それから、29ページでございます。「朝食を毎日食べる中野区の児童・生徒の割合」についても22年度のデータにしてございます。

それから、30ページでございます。「中野区の体力テスト結果の推移」「中野区の体力テスト結果＜東京都平均との比較＞」でございます。これについても22年度までの最新のデータにしてございます。

それから、31ページ、成果指標、「体力テストで中野区目標（中野スタンダード）を7割以上の児童・生徒が達成した種目の割合」につきましても、22年度の実績値に修正し、26年度の目標を22年度の実績に合わせて修正してございます。

説明は以上でございます。

飛鳥馬委員長

それでは、ただいま上程中の議案につきまして、質疑がありましたらお願いします。

高木委員

この内容についてはもう十分に議論したところでございますので、これについて異議があるものではありませんが、最後の66ページのところに「検討の経過」というのが載っていると思うのです。そもそも、今のご説明でもありましたように、22年度から第2次がスタートしているということで、「教育振興基本計画」という側面があるので慎重に審議をしないといけないというのも十分わかっております。また、審議をしたのが我々教育委員ですから、ここでこういうことを言うのもおかしいと思うのですが、実際に検討を始めてから約2年というのは、スパンとしてはちょっと長いのかなと。あと、前にもお話をしましたが、ここをやっているうちに、ビジョンをつくるのが目的になってしまっているのかなと。これは、中野区の教育行政のあり方を我々がまとめて、それを区民の方と共有するという目的ですので、次回に向けて、検討は十分にしたほうがいいのですが、やはり1年ぐらいでまとまるような仕方というのを、やはりもうちょっとわかりやすいビジョンというのを検討していただきたいなと思うところでございます。

飛鳥馬委員長

ほかにはいかがでしょうか。

山田委員

今回、こちらの1ページにありますように、このビジョンが最初につくられたのが平成17年6月ということで、このときはビジョンのほかに実行計画というものを別につくったわけですが、今回はそれをこちらに入れ込んでいるということで、分量としてはかなり厚くなっているということがあります。もちろん、今高木委員が指摘されたように、「教育振興計画」に位置づけているという位置づけはあるのですが、実際にこれは私たちがいろいろ検討はしましたが、区民の方たちと一緒に分かち合っていくビジョンでありますので、この3章のところの5年の取り組みの方向性の中で、ある程度ピックアップしたものでダイジェスト版みたいなものをおつくりいただいて、それを中心に啓発していくとか、年度ごとに、ことしはこれをやろうというような大きな目的を掲げてやっていくというような、そういった方向性が示されるようにして、これを実りあるものに変えていくといいますか……。バイブルとしてのビジョンはこれでよろしいかと思うのですが、これをどのようにかみ砕いていくか、この辺が私たちに課せられた使命ではないかと思っておりますので、今後とも我々も一生懸命協議して、区民のために、教育のために生かせるようなものにしたいと思っております。

飛鳥馬委員長

ほかはいかがでしょうか。

大島委員

私も今のお二方の先生の意見に全く同感なのです。22年度からスタートすべきところを23年になって確定ということを変更して考えますと、やはりスタートが遅かったというか、協議に時間をかけ過ぎたというか、反省の意味も込めてそう思っておりますので、高木委員のご意見をぜひ引き継いでいただいて、次回のときにはもうちょっとスピードアップしたほうがいいかなというのが1点。

また、討議している間にいろいろ状況が変わったりということもありますので、新しい状況に対応したところでのビジョンづくりということも大事だということも含めて、ちょっとスピードアップというところを反省しております。

それと、私もちょうど今同じように思っていたのですけれども、山田委員がおっしゃられたように、ダイジェスト版みたいなものがぜひあるといいなと思います。教育ビジョンは漏れがないようにというか、いろいろやりたいことを、あれもやりたいし、これにも目を配ってということで、内容が盛りだくさんになっているところがあるのですが、中野区はこれを主に重点にとか、特にアピールしたいところとか、特色を出したいところとか、何かそういうところがあるといいなということで、そういうことも含めて、もうちょっとコンパクトにした、区民の方にすぐにわかっていただけるようなアピール力のあるダイジェスト版がつくれたらいいのではないかなと。それを広く配布して、区民の方に見ていただけるような工夫をしたらいいのではないかというふうに思った次第です。

以上です。

教育長

今、各委員からご意見をいただいたことは私も同感でして、今後、これをつくったから終わりということではなくて、毎年毎年、進捗の状況でありますとか、重点的に取り組むというようなことについて教育委員会の議論を踏まえて進めていきたいというふうに思っています。

それから、状況が変わったという中には、ご議論いただきました組織改正で、生涯学習・スポーツの分野が区長部局で事務をするというようなことになっています。社会教育の部分については引き続き教育委員会が所管をするのですけれども、事務の執行は補助執行という形で区長部局が執行するというようなことになっているのです。区長部局にいったか

ら、全然違う方向でということではなくて、そごがないように一貫性のある事業執行をしていかなければいけないと思っていますので、今後、区長部局の中で健康福祉部とさまざまな協議の場を持つとか、節目節目でご報告をもらうというような、そうした連携をとりながらこの教育ビジョンを推進していきたいというふうに考えています。

飛鳥馬委員長

皆さんから意見をいただきましたが、私も同感です。この教育ビジョンはビジョンですので、教育の場合には、すぐ変えなければならぬようなこともあるでしょうし、長いスパンで考えなければいけないこともあると思うのです。高木委員が言われたように、急いでやるべきことは早く。例えば命のこととか、人権のこととか、安全のこととか、そういうことは急いでやらなければならないと思うのですが、学力みたいに、やはり慎重に考えていかなければいけないこともあるのかなというふうな気がするのです。

失敗だったかどうかは言い切れないのですけれども、ゆとり教育が随分批判されてきたわけですが、本当にそうなのか。私は、PISAの学力には、半分賛成、半分疑問です。今、PISA、活用型学力と言っているけれども、もっと基礎を大事にしなければいけないなと思っているところが私は個人的にはあるのです。だから、一度に変えるということは非常に難しいことでもあるし、社会の様子を見ながら少しずつ変えていくということが賢明だと思いますので、10年間の長期ビジョン、さらに5年間刻みの短期的な目標があっていいと思うのです。教育の世界でよく言われてきた「不易と流行」の部分もバランスよく考えてやる。伝統的に変えないものと、あるいは変えたほうがいいものですね。これを運用するに当たって私が思うのは、確実にこうなるだろうというのは、日本の社会が少子高齢化で人口が減って行って、右肩上がりの経済は恐らく無理だろうと。そういう日本の姿の中で、日本を背負っていく子どもたちをどう育てるか、どう力をつけるか。これは先進国はみんな悩みだと思えるのですけれども、そういうモデルはないだろうと思うのですね。未来のことで、特に先進国はそうなので。その中で、やはり慎重にといいいますか、そういうことでやっていくほうがいいのではないかと思うのです。ちょっと感想めいたことになってしまって申しわけないのですけれども。

ということで、基本的にはこれで進めていただいていいかなというふうに思っております。

ほかに何かございますか。よろしいでしょうか。

それでは、質疑がございませんので、質疑を終結いたします。

それでは、挙手の方法によって採決を行いたいと思います。

ただいま上程中の第8号議案を原案どおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

(全員賛成)

飛鳥馬委員長

全員賛成ですので、原案どおり決定いたします。

以上で、議決案件の審査は終了しました。

<報告事項>

飛鳥馬委員長

次に、報告事項に移ります。

<委員長、委員、教育長報告事項>

飛鳥馬委員長

まず、委員長、委員、教育長報告です。

最初に私のほうから報告します。

私は、10日木曜日に南中野中学校の研究発表会がありましたので、そちらにお邪魔してきました。南中野中学校は、「意欲の向上、考える子どもの育成」という研究テーマで、意欲的な子どもを育てたいということなのですから、特に活用型学習というのですか、学習をいかに生きたものにするか、日常生活等に活用できるかということを目指して研究を積まれたのですが、特に中学校で特色的なことは、国語とか算数とか数学とかではなくて、体育とか家庭科とか音楽とか、そういう技能教科を中心にいろいろと発表が行われたということです。

16日水曜日は中学校教育研究会の九中での発表会に行ってきました。先生方が熱心に1年間、教科ごとに分かれて研修した成果の発表というのを一通り見させていただきました。例えば国語ですと、国際交流協会の専門委員の方が、外国の子どもに日本語をどう教えるかということを中心にやられている方ですから、ちょっとおもしろい観点からお話をされていました。数学では、数学というのは関連の学問である、いかに関連づけていくことが大事か、といった話。理科では、顕微鏡の使い方についてやっていました。社会科ではICTを活用した授業ですね。英語は、先生方がグループに分かれて、劇風に役割を決めて、実際に演じてみるといいますか、そういうことをやっていました。家庭科は、食育で、元十中の校長先生が講義してくれました。技術科では、水耕栽培で、プラスチックの容器

の中にスポンジを入れて、そこで液体肥料を入れてレタスを育てたと。実物を持ってきてやっていました。体育はバスケットとか。いろいろなことがありました。

以上でございます。

では、山田委員、お願いします。

山田委員

少し前になりますけれども、2月5日は、なかのZEROホールで、ソプラノ歌手を招いての演奏会がありましたので、聴いてまいりました。日本を代表するソプラノ歌手で、最近ではNHKのドラマの主題歌を歌っている方です。非常にタイムリーな企画ではないかと思いましたが、声量が非常にすばらしく、当日はホールはおおむね満員でした。こういったいい方をたくさん招いていただいて、区民の方々と一緒に聴ける機会があればいいかなと思いました。非常に感激いたしました。

2月9日ですけれども、東京都医師会の予防接種講演会に講師として招かれまして、子宮頸がん予防ワクチンについて1時間ぐらいのお話をさせていただきました。ご承知のとおり、11月26日に子宮頸がん等臨時予防接種特例交付金というものが国のほうで補正予算が通りました関係で——ただし、この事業は23年度限りですから、平成24年3月31日までの補正予算で、たしか事業規模が1,085億円というお金だったと思うのですけれども、対象となる予防接種が子宮頸がん予防ワクチンと、生後2カ月から5歳までに打てる髄膜炎予防のHibワクチン、もう一つは、やはり髄膜炎を起こす小児肺炎球菌ワクチン、この3種類について、区市町村が手挙げをすればその半額を国が補助するという事業で、各自治体が今それに対してどのように行うのかというような事業であります。

24年度以降どうなるかという話にはなるのですけれども、もしかしたら、これは予防接種法そのものが改正されて、このワクチンももしかしたら定期予防接種化ということで、国がある程度義務化してくる可能性もあるのです。ただ、子宮頸がん予防ワクチンについては、予防接種というよりは、初めてのがん予防ワクチンですから、24年度以降はどうなるかちょっとわからないということではあります。そういったことがあるものですから、東京都も基金を創設してこの事業にかかわるということで、そういった意味で、東京都の医師会の会員のための講演会ということで、私は主に子宮頸がん予防ワクチンのお話を60分ほどしてまいりました。当日の参加者は180名前後で、もちろん都内の開業医を中心に、あとは学校の先生、区の予防接種の担当の方々と聞いております。

2月10日は、第十中学校にお招きをいただきまして、「思春期の生と性」ということで、

毎年のように十中に招かれまして、2年生の方々と一緒に広い意味での性教育ということを行っておりますので、当日、そちらに招かれて小一時間のお話をさせていただきました。2年生56名のほかに、うれしいことに、保護者並びに地域の方が8名ほど参加していただいて一緒にお話を聞いていただきました。性にかかわることというのは、今の保護者の皆さん方も学んだ経験がないと聞いておりますし、学校の教育の中で取り上げるのもなかなか難しいところもあるように聞いておりますけれども、保護者の方、地域の方と一緒に勉強できたことは非常に喜びであります。

ことは、私は、『だいじょうぶだよ、ゾウさん』という絵本をずっとテーマとしてやっております、ゾウがいよいよ年老いて自分の死に場所に行くときに、一緒に生活していたネズミがそのゾウの死に対して理解をしていくというようなストーリーなのですが、ちょうど中学生ですと、人の死についても考え始める年代で、そういったことを踏まえて、子どもたちと一緒にディスカッションできたというのは非常に有意義な時間を過ごせたかなと思いますし、その後、今の性の状況について、例えば日本でエイズに菌どめがかからないというような実態をお話しして、性というもの、もしくは性的接触というものに対してどのように付き合ったらいいのかということについてお話をさせていただきました。

16日は、中野区小学校教育研究会。この日に中野区の四つの会場で教育研究会の発表がございました。私はその中で、谷戸小学校で開催された図画工作科研究部発表会に出席いたしました。図画工作の専科の先生方が集まっているわけですね。専科の先生方は非常に熱心に、ほとんど全員が参加されて、この研究会で一緒に学んでいただきました。会場校のあった谷戸でございますけれども、谷戸の新校舎のほうといたしますか、体育館棟で行われました。1年生が粘土を使った図画工作。体育館棟にはちょっと遊びといたしますか、フリースペースがあるので、3・4年生はそこを使って、ビニールシートを使っての造形。6年生はペットボトルを使った造形ということです。見てまいりますと、図画工作というのは子どもたちがいろいろなイメージーションを働かせてくれる。

それから、そのときに感じたのですけれども、1年生は、このぐらいの大きさのところ、粘土を使っていろいろなものを組み立てていく。この場の中でどうやって表現していくのかということで、半分ぐらいの子どもたちは、例えば恐竜ですとか花ですとかを描いていく。でも、半分ぐらいの子どもたちは、作りながらいろいろなものをイメージーションしていくようなスタイルでやっておりました。

一方、3・4年生は、この部屋ぐらいのスペースのところで、ビニールシートをいろいろ使って、「自分のすてきな部屋」でしたか、そういったイメージでしたので、みんなと協力しながらやっていく。一番活発にその空間を利用してやっていたのではないかなど。

6年生はペットボトルです。ペットボトルでいろいろな形をつくりながら、例えばお城をつくっていたところもありますし、そのほかいろいろな造形物をつくって、あと、光を当てたり、風を起こしたりしていく。6年生は、もう最高学年ですので、みんなと話し合いながら、協調しながらやっていくということで、この図画工作、子どもたちのすばらしい創造力に感激しながら、空間ですか、場というのですか、それがこういった授業には大切なのだなということを実感してきました。すばらしい研究発表がなされたと思っております。

また、昨日ですけれども、平成22年度第3回中野区保健主任養護教諭研修会にお招きをいただきましたので、このときも子宮頸がん予防ワクチンについてのお話をいたしました。最近はこちらのほうの話題が多く、講師として招かれることが多いものですから、私としてもいろいろ勉強させていただいております。

私からは以上です。

飛鳥馬委員長

では、大島委員、お願いします。

大島委員

私は、2月7日月曜日の午後、教育センターで行われました教育相談の研究発表に行っていました。「学校復帰に向けた適応指導教室の支援のあり方」という全体テーマなのですけれども、教育相談は、南部と北部と教育センターの3カ所に設けられておりまして、それぞれフリーステップルームも設置して、個別の問題を抱えた児童の教育相談に当たっているわけです。扱ったいろいろな事例の中から、こういうふうアプローチしましたとか、こういうようなことを試みましたというような実践例の研究がなされて、毎年ご指導いただいている先生方も来ていただいて講評をいただいたり、講演をいただいたりというような内容でございました。教育相談の先生方は本当によくやってくれているというのが実感でして、学校復帰に向けてということではいろいろな支援をしてくださっているわけです。

私、前にも言ったことがあると思うのですけれども、学校に行けなくなった子どもたちを何とか集団の中になじませて、まずは少しでも家から出てきてもらってというところが

第一ステップなのですけれども、最終的には学校で授業を受けられるようにするということが目標として、それには学校との連携ということも必要だなと思っております。やはり、行かなくなっている間に勉強のほうがおくれてしまいますと、そういう学力的な面でもついていけなくて学校に行けないというようなことも起こってきますので、その辺、何とかいい解決の仕方というのがないものだろうか、また考えさせられたところがございます。

それから、2月16日には、今、山田委員からのご報告にもありましたけれども、小学校の教育研究会の発表があり、私は4会場で行われているうちの野方小学校に行ってみまして、教育相談部の研究発表を見てまいりました。なかなかおもしろくて、私も初めて接した内容だったので大変興味を持ちましたので、ちょっとご紹介したいと思うのです。

まず、この研究主題というのが「授業における予防的・開発的学校教育相談」。サブタイトルが「児童の主体性を引き出す授業の改善」というのです。「学校教育相談」というふうに銘打っているので、「では、教育相談とどう違うのか」という会場からの質問もあったのですけれども、「教育相談」というのは、個々の児童、個々の事例に対する個別的な取り扱いであるし、治療的なものだ。でも、「学校教育相談」というのはそうではなくて、全校生徒を対象とした全部の教職員による予防的なものだ。そういう位置づけなのです。教育相談部というのはできてまだ3年だそうで、部員の先生も全部で5人しかいらっしやらないという、まだ生まれたいな部なのだそうですが、この考え方というのは講師の先生のお話を聞いてよくわかったのです。

その講師の先生は小学校の校長先生などを長いことやっていたらっしゃった方なのですが、20年ぐらい前のある研修に行ったら、不登校とかいじめということに関する研修だったのだけれども、来ていらっしゃるほとんどが、心理療法士だとか、カウンセラーだとか、精神科のお医者さんとかで、教員は自分しかいなかった。そのときに、そういう専門家の方々は、不登校とかいじめについては学校が悪い、学校の指導が悪いと、学校のあり方を厳しく非難された。言われている自分も「ああ、そうだな」と初めは反論もできなかったというところなのだけれども、何回もそういう研修に行ったりしているうちに、学校はそういうことを予防することはできるのではないかと。先生方は、そういう個々の事例についてはよく知っていたらっしゃるけれども、学校自体にかかわっているわけではないから、学校をもっとよくすれば予防できるのではないかと。自分もいろいろ研究するようになったと。

つまり、学校がもっと温かくて居心地のいいところであれば、学校にみんなも来るだろ

うと。それから、いじめも、いじめを発生させないような土壌づくりというか、それが大事だということから、それで、その主体性を引き出す授業の改善ということなのです。つまり、授業も、できる子だけが積極的にやるということではなくて、みんながそれぞれ主体的にかかわっていけるような楽しい授業を工夫しよう。いじめが起こらないようにとか、不登校にならないようにとか、学校がそういうようなことを指導するのにかけられる時間、そのための特別の時間なんてそんなにないわけなので、やはりふだんの授業の中でそういう雰囲気づくりをしなければいけないということかなと。

この日は算数の授業だったのです。4年生の算数で、直方体と立方体ということで、直方体の展開図を書こうということ。要するに、箱の展開図が幾つできるかということを書かせるのです。初めは1人で考えるのだけれども、あと、3人ずつのグループになりまして、そのグループの中で自由に討議したり、自分の意見を出したり、助け合ったり。具体的に、頭が近いという形の3人グループにする。必ずしも机を三つではなく、頭を近くというようなこととか、それで助け合うこととかを工夫したりというようなことで、非常におもしろかったです。そういうことを題材にしながら授業を改善していこうと。そういうようなことです。

私の説明が稚拙なのでちゃんと伝わっていないかと思うのですけれども、非常にいい試みだし、そういうような観点からの授業と学校の改善というのもぜひ進めていただきたいなと思って、大変興味深く拝見してまいりました。

私からは以上です。

飛鳥馬委員長

では、高木委員、お願いします。

高木委員

2月9日午後から、野方区民ホールW I Zで開催されました中野区幼稚園教育研究会の研究発表会に行つてまいりました。私立幼稚園連合会研究部では、徳育幼稚園から「豊かな言葉を育てる」ということで事例発表。あと、区立幼稚園のほうは、2園になってしまったので、本年度は研究経過報告ということでございます。講演は、福音館の会長の方で、お話を始めたら、皆さんをすぐ引き込んで、絵本の楽しさですとか、創世記の絵本の話とか、非常に意義のあるお話を聞いて大変勉強になりました。

また、区幼研の会長のお話でも、国の方向として、幼保一体化ということで、幼稚園教育は風前のともしびというか、今後どうなるかわからないというところで、一部報道で、

完全一体化ではなくて幼稚園という形も残るとのことなのですが、まだまだ不安定でわからないところで非常に不安だということをおっしゃっていて、参加者の方もそれに共感されていたなど。

幼稚園教員、保育士さんは、多くを短大のほうで養成していますので、短大協会でも、きょうも午後から日短協の常任理事会があるので、多分その話がまた出ると思うのですが、制度を変えるというのはなかなか一概にいかないのが、当面は、何となく落ちつくところに落ちつくのかなというような理解を私はしておるのです。情報が入れば、また皆さんと共有したいと思います。

2月16日水曜日でございますが、私は、小学校教育研究会の児童文化研究部というところの発表会で、上鷺宮小学校に行つてまいりました。研究授業では、2年生が生活科でネイチャーゲーム。葉っぱを拾ってきて、それを膨らませようと。3年生は学級活動でカードゲーム。日本で言うトランプに近いようなものとか、あと、あいうえおを使ったカードでしりとりをしていくというゲームで、非常に盛り上がっていました。その後のワークショップで先生方がやってもっと盛り上がっていました。

あと、5年生の国語科では群読をやりました。群読もたまに見たことがあるのですけれども、技術的なところは私もちょっと了解をしていなかったところなのですが、引き算読みですとか、足し算読みですとか、追いかけて読みとか、1人が読んだ後みんなで読んで幅を持たせるとか、逆に、みんなで読んだ後1人で読んで際立たせるとか、あと、「静かな湖畔の～」の歌のように、「ざんざんざん」「ざんざんざん」「ざんざんざん」と、追いかけて読みとか、そういう技法もちょっと勉強しました。そういった技術を学ぶということではなくて、そういうことによって学び合いということですか、子どもの中で勉強に対するモチベーションをいろいろな教科の中で養っていくということだそうですね。

私ども短大でも、最近、正直に申し上げて、「勉強したい」と言って大学・短大に来る学生は少ないので、「ナリッジ（知識）」「スキル（技術）」「モチベーション（意欲）」。特にモチベーションのほうに……。入って、フレッシュマンキャンプとかに行つて、1泊2日で勉強の意識づけをするというのをやっているのですが、初等・中等教育でこういうのをちゃんとやっていただくと、我々も、楽はできないのですけれども、その点はスムーズかなと非常に興味しました。

また、ワークショップの中では、日本語のもので、もともとはこういうカードというのは外国の英語のものが多いので、カードショップも紹介してもらいましたので、ちょっと

行って、私どもの学校の授業でも何か応用できるかなと。

研究発表の講演は、落語家の方でしたが、区内の小学校のPTAの方なのだそうです。メインの題目は「叩き蟹」というのをされました。子どもがせっかんされそうになっているのを通りがかった旅人が助けて、もち屋さんなのですけれども、もちを買い与えて、実はお金がないので、その場でちょこちょこっと木で蟹をつくった。実はそれが左甚五郎だったという話なのです。落語がおもしろいということよりも、この話の中で、言葉の大切さですとか、コミュニケーションの大切さですとか、江戸の庶民の……。せっかんするというのは、本当は厳しいのですけれども、実はその後、子どもの家に行って、医者に診せてあげて、子どもを引き取って育ててあげるとか、そういう温かい話で、私も涙もろいのでほろっと来てしまったのですが。一見かけ離れているようで、児童文化に非常に合った講演で非常に感心しました。みんなで落語を聞いて楽しもうということではなくて、深いと感じまして、非常に感心したところでございます。

私からは以上です。

飛鳥馬委員長

では、教育長、お願いします。

教育長

特にございません。

飛鳥馬委員長

各委員から報告がありましたけれども、質問、ご意見、発言等がありましたらどうぞ。よろしいですか。

質問がないようですので、事務局報告に移ります。

<事務局報告事項>

飛鳥馬委員長

それでは、「平成23年度予算（案）の概要について」の報告をお願いします。

副参事（教育経営担当）

それでは、お手元の資料に基づきまして、「平成23年度予算（案）の概要について」、ご報告をいたします。

まず、資料の1ページをお開きください。一般会計の予算規模でございますけれども、一番下の欄にあるとおり、1,113億7,000万円ということで、対前年度比149億9,600万円増、15.6%の伸び率になってございます。

それから、歳出の欄でございます。6の子ども教育費でございますが、278億4,486万円ということで、構成比が25%になってございます。

それでは、子ども教育費のうち教育委員会所管分についてご説明いたします。2ページをお開きください。

「新規・拡充・推進事業」でございます。まず1番目、「特別支援学級教室等改修」ということで6,582万8,000円でございます。若宮小学校の情緒障害等特別支援学級の増設と第七中学校の知的障害特別支援学級増に伴う教室の改修でございます。

2番目でございます。「地域に開かれた学校づくりと学力・体力の向上」で1,025万5,000円でございます。3点ございまして、学校教育向上事業研究指定校を10校から15校に拡充します。それから、第三者による学校評価の導入検討、学校支援ボランティア制度の推進でございます。

3番目、「区立学校の再編」で総額で31億5,608万4,000円でございます。統合準備、施設整備工事、統合新校の拡張用地購入等の経費でございます。

4番目、「谷戸小学校校舎改築・耐震補強工事」、5億9,040万円でございます。

続いて、4ページをお開きください。ナンバー10の③「区立幼稚園ホールの冷房化」、1,043万9,000円でございます。これは、区立幼稚園2園のホールに冷房機器を設置するものでございます。

続いて、5ページをごらんください。「子ども教育費の見直し等」でございます。まず、1番目が「教育センター研修室等の夜間貸出廃止」ということで、これによりまして36万8,000円の削減でございます。2番目、「図書館の選書業務の委託化」で、1,484万5,000円でございます。

それから、③「健康福祉費の拡充・推進事業」でございます。1番目、「ないせすネットのリプレース」で8,213万2,000円でございます。2番目、「地域スポーツクラブの運営」で4,434万6,000円を計上してございます。

それから、④「健康福祉費の見直し等」で、1番目の「歴史民俗資料館業務委託」、3,255万円でございます。

6ページをお開きください。「その他経常経費等の事業」ということで、1番目が、小学校8校に新JIS机いすの整備を行うものでございます。3年計画の2年目でございます。2番目が、中学校各校に第20面を整備するものでございます。これは新学習指導要領へ対応するものでございます。3番目が、小学校14校で児童・教員用のパソコンとサーバのリ

プレースを行うものでございます。これらは平成16年度に整備されたものでございます。

7ページをごらんください。⑥「主な施設改修等」でございます。1番目、「小学校・中学校（主なもの）」でございますけれども、外壁改修工事、便所改修工事、Pタイル床改修工事、冷暖房設備更新、校庭整備工事を予定してございます。2番目の「少年自然の家・図書館」でございます。軽井沢少年自然の家の屋根の張りかえ等の改修工事、江古田図書館でファンコイルユニットの更新工事、野方図書館で空調設備・キュービクル更新工事を予定してございます。

4の「健康福祉部所管施設」でございますが、もみじ山文化センターの地下駐輪場消防設備改修工事を予定してございます。

ご説明は以上でございます。

飛鳥馬委員長

それでは、23年予算（案）についての説明がありました。質問がありましたらどうぞ。では、私から簡単なことをいいですか。

2ページの上から2番目の2、一つ目の「・」に「研究指定校の拡充（10校→15校）」とありますが、内容はどんなことを考えていらっしゃるか。特色ある学校づくりの延長線になってくるのかどうか。その辺がわかったら教えていただきたいということ。

それから、三つ目の「学校支援ボランティア」は、今まで何回か話をしてきたことなのですけれども、これについて補足説明をいただければありがたいと思います。

指導室長

最初の学校教育向上事業でございますけれども、これは、これまで特色ある学校づくりというふうな項目でやっておりました。これは、各学校の課題でということでございますけれども、この学校教育向上事業につきましては、区の課題として、それをそれぞれの学校、指定した学校に研究をしていただいて、研究の途中からその研究成果を普及・啓発していくというものでございます。

飛鳥馬委員長

15校全体がそうなるということですか。一部分ですか。

指導室長

すべての学校がこちらで幾つかの例をお示しして、その中で研究テーマを選んでいただくということになります。

副参事（学校教育担当）

学校支援ボランティア制度につきまして補足説明させていただきます。

現在、学校のほうではいろいろなボランティアの方が活躍しているところもございます。ただ、学校ごとに統一されたやり方ではないということ、また、保険の関係とか実費弁償等、そういうことが制度的になかなかできていないということなので、この辺を含めて、今回、全区的に同じようにやっていくということで予定しているものでございます。幼稚園、小学校、中学校、それぞれ学校ごとにコーディネーターの方を配置して、そしてまた、学校ごとにそういう制度を推進していくような何らかの会議体を設置して進めていこうということで、予定ではことしの9月をスタート時期として予定しております。

飛鳥馬委員長

9月スタートですね。わかりました。

ほかの方はどうですか。

山田委員

今年度から、いわゆる部の再編に伴って、予算の上では款項目が変わってしまっているとなると、実際に教育委員会の予算としては、次年度とはどうだったのかとかいうことがわかりにくくなってきていると思うのですね。子ども教育費ということになると、いわゆる子ども家庭部の予算もこの中に入ってきている。その辺が私も非常にわかりにくくて、私たちが言うのもよくわからないという事実なのですけれども、こういったことというのは、区のほうの大きな再編の中での動きだと思うのですけれども、実際には教育委員会の予算というのは前年度と比べてどういうふうに変ったのか。その辺がわかりやすくないとご説明が難しいのかなと。その辺はいかがなのでしょう。

副参事（教育経営担当）

23年度に大きな組織改正がございますので、単純に比較することは難しいわけですが、庁内の職員の人件費を除いて、平成22年度の教育費と平成23年度の教育委員会関係の経費を、現在の組織、生涯学習も含んだ分で比較いたしますと、平成22年度が80億円弱でございました。これに対して平成23年度が105億円弱で、約25億円増加してございます。

その主な要因といたしましては、区立学校再編のための経費が合計で19億4,000万円ほどふえていると。それから、谷戸小学校の耐震補強・改築工事で5億6,000万円ほどということでございます。これが主な要因でございます。

飛鳥馬委員長

よろしいですか。

ほかにはどうでしょうか。

高木委員

子ども教育になりまして、ここにいる方で回答できるかどうかわからないのですが、待機児ゼロ対策というのがありますよね。保育園の待機児童対策というのは、私もちょっと不勉強で、今どれぐらい待機児童がいるのかわからないので、ざっくりとでいいので、それを教えていただきたい。例えば、区立保育室事業で新規9,547万円。これは多分年間の予算だと思うのですけれども。それで、定員が1歳児、2歳児、各20名で40人ですよ。割ると、1人240万円ぐらい、月額20万円ぐらいかかるのですけれども、すごく効率が悪いとか。そんなにかかるものなのですか。もっとほかに……。お仕事をされる保護者の方にとって必要な施設だというのはわかるのですけれども、費用対効果がすごく悪いような気がするのですが。そういうこともこれから考えていかなくてはいけないのかなと思うと、ちょっと質問したいのです。担当外で答えられない場合は結構です。

副参事（教育経営担当）

待機児の現状でございますけれども、所管外でございます、正確な数字は把握してございませんが、ここ数年、倍以上にふえるというような傾向がございます、待機児が全国で何万人もいる、そのうち大都市圏が非常にふえているというような状況で、中野区でも毎年毎年待機児が出ているというような状況でございます。それを待機児ゼロを目指して、認証保育所であるとか、区立保育園の民営化によりまして定員を拡大するとか。あるいは、この区立保育室事業というのは初めてやるわけですけれども、こういった形で、区立であるけれども、認可外でつくっていくというようなことで対策を組んでいくということでございます。

確かに、経費の面でいきますと、コストが非常にかかる。0歳児が一番コストがかかって、5歳児までにコストがだんだん減っていくわけですけれども、0歳児ですと月に100万円単位でお金がかかるというようなことでございます。というのは、低年齢になればなるほど、職員の配置基準というのが、0歳であれば1人に対して3人つくというような形で決まっているものですから。この区立保育室については認可保育園の基準に準じて行うというふうに聞いておりますので、そういう意味で経費がかかっているものというふうに思っております。

高木委員

ありがとうございます。よく理解しました。イニシャルコストではなくて、これぐらい

かかるということなのですね。今後のためにもうちょっと勉強しておきます。

あともう1点。6ページのところで、「小学校児童・教員用パソコンのリプレース」というのがあるのですが、平成16年に整備したということで7年経過していますので、多分、OSは2世代かわっているのもう当然……。私も学校公開とかに行ったときに、ちょっと裏のほうを見たりして、大分古いのを使っているなど。古いと、ウイルスとかにも弱いので、もうそろそろリプレースなのかなと考えていたところなのですが、多分、これは今、リースで契約をしていると思うので、リプレースしてリース契約をするという理解でいいのかということ。

あと、現状で、小学校はワープロなどは統合ソフトを使っていて非常に使いにくい、教えるにくいというところがあるので、その辺は見直すところがあるのか。つまり、家庭で復習させようと思っても、エクセルとか、ワードとか、パワーポイントではないので、子ども自身も復習ができないし、親も教えられない。先生もわざわざ統合ソフトを覚えなくてはいけないというデメリットがあるので、そこら辺はどういうふうな形なのでしょう。

指導室長

まず一つ目でございますけれども、この14校分については、これまでリースしていたものの再リースということになります。

それから、統合ソフトでございますけれども、小学校の場合、どうしても1年生から6年生まで何らかの形で使用するということから、お絵かきソフトが入っていたり、ワープロもその学年に準じた、例えば漢字変換も学年ごとの変換ができるような仕組みになっていたりしますので。確かに、高学年ではもうワードが使えるというか、使わせてもいいのかなと思うのですが、そんな状況にあって、小学校は統合ソフトを入れている傾向が多くなっております。

飛鳥馬委員長

ほかにはどうでしょう。

大島委員

2ページの2のところで、質問に出なかった、三つ並んでいる「・」の真ん中のところが私はちょっと気になっていまして、「第三者による学校評価の導入検討」ということなのですけれども、現在は第三者による学校評価というのは全くやられてなかったのかということの確認が一つと、この第三者によるものを導入した場合に経費としてはどんなようなものが考えられるのか。この辺をお願いします。

指導室長

第三者評価でございますけれども、現時点ではこういう形で行っておりません。今、学校の自己評価、それを公表して学校関係者評価というふうにしております。この第三者評価については、それをさらに学識経験者等に客観的な立場で評価をしていただくという制度でございます。これも法律で求められているところでございますけれども、実際には、来年度どのように導入していくかという検討を始めていくというものでございまして、実は各自治体で導入を検討しているところですが、経費がかなりかかるということがございます。というのも、学識経験者による第三者評価委員会を設置して、その方々に学校を回っていただいたり、学校の資料を見ていただいたりという、かなり大変であるということもあるので、その辺の課題を来年度整理するというところでございます。

飛鳥馬委員長

ほかにはどうでしょうか。

もう一点、私のほうから。

耐震補強がちょっと気になっているのです。2ページの4番目のところにありますけれども、学校名は別として、23年度、何校ぐらいとか、どのくらい進むとか、もうちょっと内容はございますか。耐震補強について。

副参事（教育経営担当）

23年度の耐震補強工事は、再編の関係を除きますとここだけでございます。

飛鳥馬委員長

ほかにはどうでしょうか。よろしいでしょうか。

また何かありましたら、後日質問してほしいなと思います。

それでは、ほかに報告事項はございませんか。

指導室長

それでは、前回ご報告を申し上げました「平成22年度体力テストの結果と体力向上に向けた取組」の資料でございますが、一部データに誤りがございましたので、本日差しかえをお願いいたします。具体的には、4ページの握力のデータの部分が一部間違っておりますので、本日お配りしているものと差しかえをお願いいたします。結果の分析、考察等には変化はございません。よろしくをお願いいたします。

飛鳥馬委員長

それでは、資料の訂正ということでよろしく申し上げます。

ほかにはいかがでしょうか。

報告事項はよろしいでしょうか。

それでは、以上で本日の日程を終了いたしました。

これをもちまして、教育委員会第5回定例会を閉じます。ご苦労さまでした。

午前11時02分閉会